



受付案内システム

形名

CA-15DS6

CA-15SS6

CA-15DM6

CA-15SM6

カスタマイズ説明書

コン コン コール

Computer Conducting Call System

本説明書はシステムメンテナンスの詳細を説明したものです。

日常のお取り扱い等は、取扱説明書に記載していますので、そちらを参照してください。

目次

1	ご使用になる前に.....	1
1)	コンコンコール システムメンテナンスとは.....	1
2)	カスタマイズによる空き容量について	1
2	システムメンテナンス.....	2
1)	システムメンテナンス画面	2
◆	起動方法.....	2
◆	メニューバー	2
◆	ツールバー	3
◆	操作方法.....	3
2)	Contents フォルダ（画面コンテンツの情報）.....	4
◆	Forms フォルダ（画面の情報）.....	4
◆	Elements フォルダ（画面要素の情報）.....	5
◆	WebPages フォルダ（Web ページの情報）.....	11
3)	Resources フォルダ（データリソースの情報）.....	12
◆	Languages フォルダ（言語の情報）.....	12
◆	Texts フォルダ（文字列の情報）.....	12
◆	Images フォルダ（画像の情報）.....	13
◆	Sounds フォルダ（音声の情報）.....	13
◆	Backgrounds フォルダ（背景の情報）.....	14
◆	Videos フォルダ（動画の情報）.....	15
◆	Musics フォルダ（音楽の情報）.....	16
4)	Datas フォルダ（検索データの情報）.....	17
◆	Companies フォルダ（組織の情報）.....	17
◆	Categories フォルダ（分類の情報）.....	17
◆	Contacts フォルダ（連絡先の情報）.....	18
5)	Others フォルダ（その他の情報）.....	19
◆	Plugins フォルダ（拡張機能の情報）.....	19
◆	Settings フォルダ（設定の情報）.....	19
3	パラメータについて.....	22
1)	変数.....	22
◆	参照方法.....	22
◆	システム変数	22
◆	変数関数.....	24
2)	Resource(データリソース)	25
◆	参照方法.....	25
3)	DataLink(検索データ)	25
◆	参照方法.....	25
4)	スクリプト.....	25
◆	コマンド一覧.....	26
4	お手持ちのパソコンでデータをメンテナンスする.....	37
◆	メンテナンスツールのインストール	37
◆	USBメモリ等を使用する場合.....	38
◆	ネットワークに接続している場合	40

5	コンコンコールのカスタマイズ	41
1)	Forms の対応画面について	41
2)	Elements (画面要素)、HTMLs (Web) の配置位置	43
3)	カスタマイズ例	43
◆	名前検索機能を無効にする	43
◆	無人時に省電力モードで待機する	44
◆	検索方法選択画面の「部門検索」ボタンを「会社名検索」に変更する	45
◆	言語選択ボタンを追加して多言語対応にする	45
◆	製品ロゴを別の画像に変更する	46
◆	画面にメッセージを追加する	47
◆	無人時に動画を再生する	48

1 ご使用になる前に

1) コンコンコール システムメンテナンスとは

表示される文章の変更、ボタンの色の変更、背景・BGM の変更など、お客様独自でシステムの設定を変更する時に使用します。

設定変更は、コンコンコール システムメンテナンス(以下システムメンテナンス)を使用します。

お願い： システムメンテナンスにはコンコンコールの動作に関わる内容が数多く登録されています。不用意に内容を変更されますとコンコンコールが正常に動作しなくなる恐れがあります。本書に書かれている内容を十分理解した上で操作してください。

2) カスタマイズによる空き容量について

データを追加することによりデータベースファイルのサイズが大きくなります。データベースファイルの最大サイズは、システムドライブ (C:) にデータベースファイルのサイズの 2 倍以上の空き容量を確保できるサイズまでとしてください。空き容量が少ないと動作不良の原因となります。

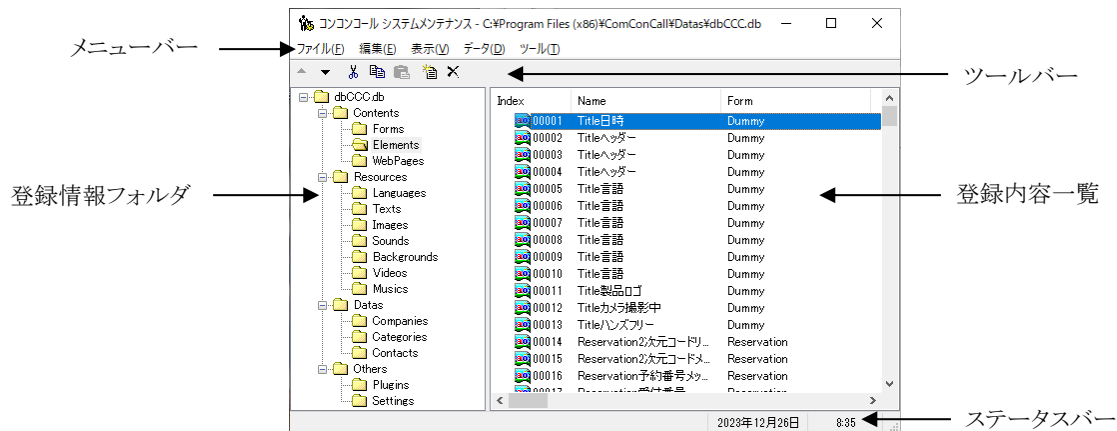
特に動画、背景、音声を追加する場合は空き容量に注意してください。

例) データベースファイルサイズが 200MB の場合、 $200\text{MB} \times 2 \text{ 倍} = 400\text{MB}$ の空き容量が必要です。

2 システムメンテナンス

1) システムメンテナンス画面

コンコンコールのカスタマイズは、システムメンテナンス画面を使用します。



◆ 起動方法

以下のいずれかで起動してください。

- デスクトップ上の「コンコンコール 8.0 管理メニュー」ショートカットアイコン(🖱️)を実行し、**コンコンコール システムメンテナンス** を選択します。
- Windowsの「スタート」メニューから **すべてのプログラム(P) - コンコンコール Ver8.0 - コンコンコール8.0 システムメンテナンス** を選択します。

◆ メニューバー

ファイル(F)

- 外部データベース書き出し(バックアップ)...** ...外部のデータベースヘデータのコピーを作成します。
- 外部データベース取り込み(復旧)...** ...外部のデータベースファイルからデータを取り込みます。
- データベースの修復(R)** ...データベースを修復します。
- システムメンテナンスの終了(X)** ...システムメンテナンス画面を終了します。

編集 (E)

- 切り取り (T)** ...選択しているデータを切り取ります。
- コピー (C)** ...選択しているデータをコピーします。
- 貼り付け (P)** ...コピーしたデータを貼り付けます。

表示 (V)

- ツールバー(T)** ...ツールバーの表示／非表示を設定します。
- ステータスバー (B)** ...ステータスバーの表示／非表示を設定します。
- バージョン情報 (A)** ...バージョン情報を表示します。

データ(D)

- 新規作成(N)** ...データを新規作成します。
- 削除(X)** ...選択しているデータを削除します。
- 上へ (U)** ...選択しているデータを上に移動します。
- 下へ (D)** ...選択しているデータを下に移動します。

ツール(T)

インポート(I) テキストファイルを選択されているフォルダに取り込みます。

エクスポート(E) 選択されているフォルダの内容をテキストファイルとして出力します。

◆ ツールバー



..... 対象データの順序を変更します。



..... 対象データを切り取ります。



..... 対象データをコピーします。



..... 切り取りまたはコピーしたデータを貼り付けます。



..... データを新規作成します。



..... 対象データを削除します。

◆ 操作方法

- ① 登録情報フォルダの中から目的のフォルダを選択します。
- ② 新しい項目を追加する場合は、**データ(D)－新規作成(N)** を選択します。(またはツールバーの  をクリックします。)
- ③ 既存の項目の内容を変更する場合は、登録内容一覧に表示されている目的のアイコンをダブルクリックまたはキーボードの **[Enter]** キーを押し、登録内容一覧画面を表示させます。
- ④ 既存の項目を削除する場合は、**データ(D)－削除(X)** を選択します。(またはツールバーの  をクリックします。)
- ⑤ 登録内容の順序を変える場合は、**データ(D)－上へ(U)** または **データ(D)－下へ(D)** を選択します。(またはツールバーの  をクリックします。)

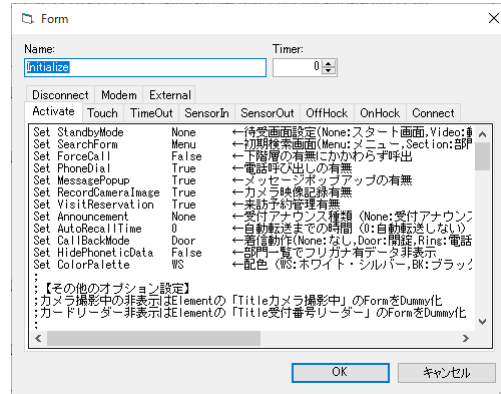
2) Contents フォルダ（画面コンテンツの情報）

システムの画面コンテンツに関するデータがまとめられています。

◆ Forms フォルダ（画面の情報）

コンテンツの画面（ページ）データである Form（画面）が登録されています。

Form（画面）には画面が表示されているときに発生する各種イベントに応じて実行するスクリプトを設定します。



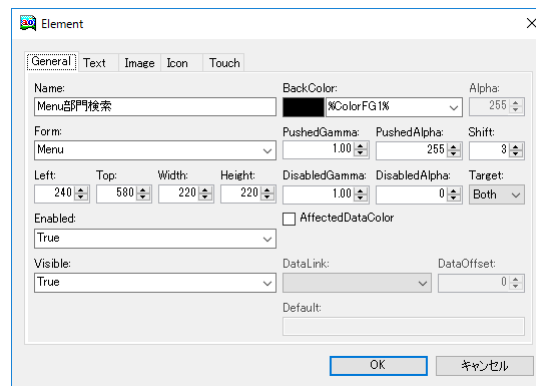
項目	説明																								
Name	画面の識別名を設定します。																								
Timer	無操作時間と判断するまでの秒数を設定します。外部からの入力無くイベントの発生がない時間がここに設定した秒数を超えた場合、後述の TimeOut イベントが発生します。0 に設定した場合、もしくは TimeOut に何も設定されていない場合無効となります。																								
イベントタブ	イベントが発生したときに実行するスクリプトを設定します。スクリプトの記述方法や動作の種類など詳しくは「3 4) スクリプト」を参照してください。 Form で発生するイベントは以下の通りです。 <table> <tr> <th>イベント</th><th>説明</th></tr> <tr> <td>Activate</td><td>画面（ページ）が表示されたときに発生します。</td></tr> <tr> <td>Touch</td><td>画面にタッチされたときに発生します。</td></tr> <tr> <td>TimeOut</td><td>Timer で設定された秒数分、外部からの入力が無かったとき発生します。</td></tr> <tr> <td>SensorIn</td><td>人感センサーが感知したとき発生します。</td></tr> <tr> <td>SensorOut</td><td>人感センサーが感知しなくなったとき発生します。</td></tr> <tr> <td>OffHook</td><td>受話器を取ったとき発生します。</td></tr> <tr> <td>OnHook</td><td>受話器を置いたとき発生します。</td></tr> <tr> <td>Connect</td><td>呼び出し先の相手が電話に出たとき（回線の極性が反転したとき）発生します。 ※1</td></tr> <tr> <td>Disconnect</td><td>通話が切断したとき（回線の極性が元に戻ったとき）発生します。 ※1</td></tr> <tr> <td>Modem</td><td>モデムからの応答があったとき発生します。</td></tr> <tr> <td>External</td><td>外部アプリケーションから応答があったときに発生します。</td></tr> </table>	イベント	説明	Activate	画面（ページ）が表示されたときに発生します。	Touch	画面にタッチされたときに発生します。	TimeOut	Timer で設定された秒数分、外部からの入力が無かったとき発生します。	SensorIn	人感センサーが感知したとき発生します。	SensorOut	人感センサーが感知しなくなったとき発生します。	OffHook	受話器を取ったとき発生します。	OnHook	受話器を置いたとき発生します。	Connect	呼び出し先の相手が電話に出たとき（回線の極性が反転したとき）発生します。 ※1	Disconnect	通話が切断したとき（回線の極性が元に戻ったとき）発生します。 ※1	Modem	モデムからの応答があったとき発生します。	External	外部アプリケーションから応答があったときに発生します。
イベント	説明																								
Activate	画面（ページ）が表示されたときに発生します。																								
Touch	画面にタッチされたときに発生します。																								
TimeOut	Timer で設定された秒数分、外部からの入力が無かったとき発生します。																								
SensorIn	人感センサーが感知したとき発生します。																								
SensorOut	人感センサーが感知しなくなったとき発生します。																								
OffHook	受話器を取ったとき発生します。																								
OnHook	受話器を置いたとき発生します。																								
Connect	呼び出し先の相手が電話に出たとき（回線の極性が反転したとき）発生します。 ※1																								
Disconnect	通話が切断したとき（回線の極性が元に戻ったとき）発生します。 ※1																								
Modem	モデムからの応答があったとき発生します。																								
External	外部アプリケーションから応答があったときに発生します。																								

※1 交換機側の回線が極性反転である場合に機能します。極性反転でない場合は、交換機に極性反転タイプのボードを追加する必要があります。詳しくは交換機メーカーにお問い合わせください。

◆ Elements フォルダ（画面要素の情報）

画面（ページ）上に表示する画面要素データである Element（画面要素）が登録されています。

Element（画面要素）にはメッセージや画像などの表示する内容や表示位置、タッチされた時に実行するスクリプトなどを設定します。

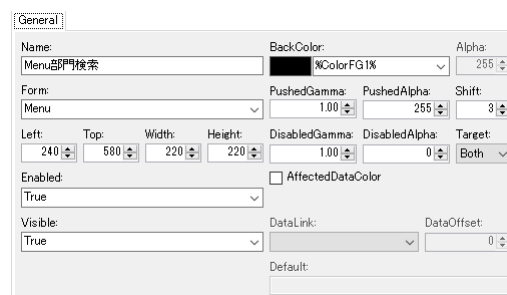


設定項目は機能毎にタブで以下のようにグループ化されています。

グループ(タブ) 説明

General	画面要素の基本的な情報です。
Text	表示する文字や文章に関する情報です。
Image	画面要素の背景となる画像の情報です。
Icon	Text や Image より前面に表示する画像(アイコン)に関する情報です。
Touch	画面要素がタッチされたときの動作に関する情報です。

• General タブ



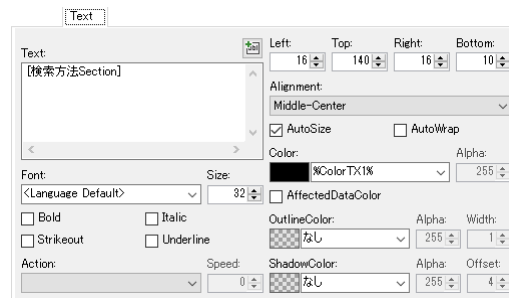
項目 説明

Name	画面要素の識別名を設定します。
Form	画面要素を表示する画面の名前(Name)を設定します。右側の▼をクリックして一覧から選択可能です。
Left	画面要素の表示横位置をピクセル単位で設定します。(0～1079) ※1
Top	画面要素の表示縦位置をピクセル単位で設定します。(0～1919) ※1
Width	画面要素の幅をピクセル単位で設定します。(1～1080) ※1
Height	画面要素の高さをピクセル単位で設定します。(1～1920) ※1

※1 範囲外に設定することも可能ですが画面要素が表示されない場合があります。コンテンツデータは Full-HD サイズ (1080×1920 ピクセル)で作成されています。

項目	説明
Enabled	画面要素の有効・無効を設定します。右側の▼をクリックして一覧より選択するか、True (1)または False (0)となる式を指定します。False (0)が指定された場合、Event の機能が無効化されます。
Visible	この画面要素を表示する・しないを設定します。右側の▼をクリックして一覧より選択するか、True (1)または False (0)となる式を指定します。False (0)が指定された場合表示は行われず、Event の機能も無効化されます。
BackColor、Alpha	画面要素の表示範囲を塗りつぶす背景色を設定します。Image 項目が設定されている場合画像にここで指定された色のフィルタがかけられます。左側の色表示部分をクリックすると、“色の指定”ダイアログボックスが開きますので、一覧の中から目的の色を選択します。 Alpha には塗りつぶす背景色の透明度を 1~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。
PushedGamma	画面要素がタッチされたときの文字や画像の明るさを-2.0~2.0 の範囲で設定します。数値が 0 に近づくほど暗くなります。負の値を設定した場合グレー表示されます。
PushedAlpha	画面要素がタッチされたときの文字や画像の透明度を 0~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。
Shift	画面要素がタッチされたときの文字や画像の表示位置ズレ幅を設定します。
DisabledGamma	画面要素が無効化されているときの文字や画像の明るさを-2.0~2.0 の範囲で設定します。数値が 0 に近づくほど暗くなります。負の値を設定した場合グレー表示されます。
DisabledAlpha	画面要素が無効化されているときの文字や画像の透明度を 0~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。
Target	DisabledGamma 及び DisabledAlpha の効果を適用する要素を設定します。右側の▼をクリックして一覧より None (なし)、Fore (文字などの前景)、Back (イメージなどの背景)、Both (両方)のいずれかを選択します。
AffectedDataColor	Contacts (連絡先)と関連付けられている場合、BackColor を割り当てられた Contacts (連絡先)の Color で置き換えるかどうかを設定します。
DataLink	検索データ (Data)と関連付けを行うかどうかを設定します。右側の▼をクリックして一覧より空白 (関連付けなし)、Contacts (連絡先)、Languages (言語情報)、Categories (分類情報)のいずれかを選択します。同一画面上に複数の同様に関連付けされた画面要素が存在する場合、DataOffset に指定された内容に従いデータが割り当てられます。データの内容は変数として設定され、スクリプトやその他のパラメーターで利用することができます。変数に関する詳細は「3 1 変数」を参照してください。
DataOffset	割り当てるデータのレコード位置を設定します。カレントレコードを 1 (カレントレコードのひとつ前は-1)として相対位置で指定します。0 を指定した場合は同一画面上に複数の同様に関連付けされた画面要素の Index の数字が小さいものから順にデータが割り当てられます。
Default	Contacts (連絡先)と関連付けされている場合、追加のデータ抽出条件を設定します。データ抽出条件に合致するデータが存在しない場合には画面要素が無効化されます。

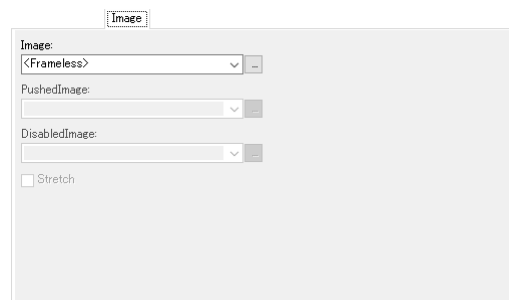
• Text タブ



項目	説明		
Text	表示する文字列を設定します。文字列は配置属性や文字属性を指定して自由なレイアウトをすることができます。変数や言語別の文字列情報、関連付けされた検索データの内容等を表示することができます。 配置属性及び文字属性は「<属性名=値>」のように「<>」で囲んで指定します。カンマ(,)により複数の属性を指定することができます。配置属性の場合は「<Layout 属性名=値>」のように「Layout」を先頭に追加します。以下に使用できる配置属性及び文字属性を示します。 Texts フォルダに登録したデータを使用する場合は角括弧「[]」で識別名を囲みます。		
属性名	配置属性	文字属性	説明
Alignment	☐		文字列の描画範囲内での配置を指定します。指定できる値は Left 、 Center 、 Right 、 Top 、 Middle 、 Bottom 及びこれらの文字列の組み合わせです。
Left	☐		文字列を配置する左端を画面要素の左端からの距離で指定します。
Top	☐		文字列を配置する上端を画面要素の上端からの距離で指定します。
Right	☐		文字列を配置する右端を画面要素の右端からの距離で指定します。
Bottom	☐		文字列を配置する下端を画面要素の下端からの距離で指定します。
AutoSize	☐		文字列のサイズ調整制御方法を指定します。自動調整する場合は True (1)、自動調整しない場合は False (0)を指定します。
WordWrap	☐		文字列の改行制御方法を指定します。自動改行する場合は True (1)、自動改行しない場合は False (0)、改行を抑制する場合は Exclude を指定します。
Font	☐	☐	文字列のフォント名を指定します。
Size	☐	☐	文字列のサイズを指定します。
Bold	☐	☐	文字列を太字にするかどうかを True または False で指定します。
Italic	☐	☐	文字列を斜体にするかどうかを True または False で指定します。
Color	☐	☐	文字列の色(色名または#から始まる8桁(RGB)または6桁(ARGB)の16進数)を指定します。

項目	説明
Font, Size, Bold, Italic, Strikeout, Underline	文字列を表示するフォントの名前、サイズ、スタイルを設定します。フォントの名前は右側の▼をクリックして一覧から選択可能です。<Language Default>を指定した場合、言語情報の Font で指定されたフォントが使用されます。
Action, Speed	文字列の動きを設定します。右側の▼をクリックして一覧より選択します。指定できる表示動作は以下のとおりです。 ・ <指定なし> …… 文字列の動きはありません。 ・ HScroll …… 文字列を右から左へスクロールして表示します。 ・ VScroll …… 文字列を下から上へスクロールして表示します。 ・ Blink …… 文字列を点滅させて表示します。 Speed に動きの速さを指定します。スクロールの場合は値が大きくなるほど早くスクロールします。点滅の場合は値が大きくなるほどゆっくり点滅します。
Left	文字列を配置する左端を画面要素の左端からのピクセル数で設定します。
Top	文字列を配置する上端を画面要素の上端からのピクセル数で設定します。
Right	文字列を配置する右端を画面要素の右端からのピクセル数で設定します。
Bottom	文字列を配置する下端を画面要素の下端からのピクセル数で設定します。
Alignment	文字列の描画範囲内での配置を設定します。右側の▼をクリックして一覧より選択します。
AutoSize	文字列が表示範囲内に収まらない場合、表示範囲に収まるよう自動的に文字列を縮小するかどうかを設定します。表示範囲内に収まるかどうかの計算は Text 内の配置属性単位に行われます。
AutoWrap	文字列が表示範囲内に収まらない場合、表示範囲に収まるよう自動的に改行するかどうかを設定します。表示範囲内に収まるかどうかの計算は Text 内の配置属性単位に行われます。
Color, Alpha	文字列の色を設定します。左側の色表示部分をクリックすると、“色の指定”ダイアログボックスが開きますので、一覧の中から目的の色を選択します。 Alpha は文字列の色の透明度を 1~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。
OutlineColor, Alpha, Width	文字列の縁取りの色を設定します。左側の色表示部分をクリックすると、“色の指定”ダイアログボックスが開きますので、一覧の中から目的の色を選択します。 Alpha には縁取りの色の透明度を 1~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。 Width には縁取りの幅を設定します。
ShadowColor, Alpha, Offset	文字列の影の色を設定します。左側の色表示部分をクリックすると、“色の指定”ダイアログボックスが開きますので、一覧の中から目的の色を選択します。 Alpha には影の色の透明度を 1~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。 Offset には文字列と影の距離を設定します。

• Image タブ



項目	説明
Image	表示する画像の識別名を設定します。識別名は Images フォルダに登録したデータを使用する場合は角括弧「[]」で囲みます。ボタンなど既定のデザインのイメージを使用する場合は不等号括弧「<>」で囲みます。ファイルとして存在する画像を使用する場合は、コンコンコールのデータベースが存在するパスからの相対パスを指定します。 頻繁に使用する画像は Images フォルダに登録することをお勧めいたします。これを参照することでシステムのパフォーマンスを向上させることができます。 右側の  をクリックすると Images フォルダに登録されている画像を含む選択可能な一覧表示されますので、ここから選択することが可能です。右側の  をクリックするとファイルを開くダイアログが開きますのでここから画像ファイルを選択することが可能です。
PushedImage	画面要素がタッチされたときに表示する画像の識別名を設定します。設定する内容は Image 項目と同様です。
DisabledImage	画面要素が無効化されているときに表示する画像の識別名を設定します。設定する内容は Image 項目と同様です。
Stretch	画像を画面要素の表示領域に合わせ拡大縮小して表示するかどうかを設定します。

• Icon タブ

項目	説明
Icon	表示するアイコンの識別名を設定します。識別名は Images フォルダに登録したデータを使用する場合は角括弧「[]」で囲みます。ファイルとして存在する画像を使用する場合は、コンコンコールのデータベースが存在するパスからの相対パスを指定します。 頻繁に使用する画像は Images フォルダに登録することをお勧めいたします。これを参照することでシステムのパフォーマンスを向上させることができます。 右側の をクリックすると Images フォルダに登録されている画像を含む選択可能な一覧表示されますので、ここから選択することが可能です。右側の をクリックするとファイルを開くダイアログが開きますのでここから画像ファイルを選択することが可能です。 識別名の後に「:」（コロン）で区切ってアイコンの色（色名または#から始まる 8 桁 (RGB) または 6 桁 (ARGB) の 16 進数）を指定できます。
PushedIcon	画面要素がタッチされたときに表示するアイコンの識別名を設定します。設定する内容は Icon 項目と同様です。
DisabledIcon	画面要素が無効化されているときに表示するアイコンの識別名を設定します。設定する内容は Icon 項目と同様です。
Stretch	アイコンをアイコンの表示領域に合わせ引き伸ばして表示するかどうかを設定します。
Left	アイコンの表示横位置を画面要素の左端からのピクセル数で指定します。
Top	アイコンの表示縦位置を画面要素の上端からのピクセル数で指定します。
Width	アイコンの幅をピクセル単位で指定します。
Height	アイコンの高さをピクセル単位で指定します。

• Touch タブ

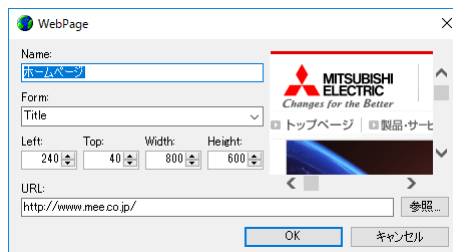
項目	説明
Touch	画面要素がタッチされた時に実行するスクリプトを設定します。スクリプトの記述方法や動作の種類など詳しくは「 3 4) スクリプト 」を参照してください。

◆ WebPages フォルダ (Web ページの情報)

画面(ページ)上に表示する Web ページ(HTML コンテンツ)データである WebPage(Web ページ)が登録されています。

WebPage(Web ページ)には Web ページの URL や表示位置などを設定します。本システムがネットワークに接続されていれば、ネットワーク上に存在する会社紹介や製品紹介などのホームページをインフォメーションとして表示することができます。

※ 標準コンテンツでは使用していません。



項目	説明
Name	Web ページの識別名を設定します。
Form	Web ページを表示する画面の名前(Name)を設定します。右側の▼をクリックして一覧から選択可能です。
Left	Web ページ表示領域の表示横位置をピクセル単位で設定します。(0～1079) ※1
Top	Web ページ表示領域の表示縦位置をピクセル単位で設定します。(0～1919) ※1
Width	Web ページ表示領域の幅をピクセル単位で設定します。(1～1080) ※1
Height	Web ページ表示領域の高さをピクセル単位で設定します。(1～1920) ※1
URL	Web ページへの URL を設定します。ローカルファイルを設定することもできますので、インターネットに接続することなく Web ページを表示することができます。
参照...	“ファイルを開く”ダイアログボックスを表示させ登録・変更する HTML ファイルを選択します。選択する HTML ファイルは、ローカルディスクに保存されているものに限りです。

※1 範囲外に設定することも可能ですが画面要素が表示されない場合があります。コンテンツデータは Full-HD サイズ (1080×1920 ピクセル)で作成されています。

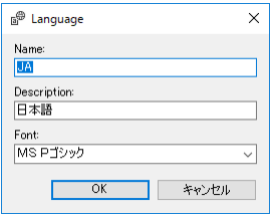
3) Resources フォルダ（データリソースの情報）

システムで使用する既定のデータです。

◆ Languages フォルダ（言語の情報）

システムで使用する言語データである Language(言語)が登録されています。ここに登録されたデータは言語ごとの設定を持つ他の Resources(データリソース)や Datas(検索データ)の Language と連携します。

Language(言語)には表示名称や使用するフォントを設定します。

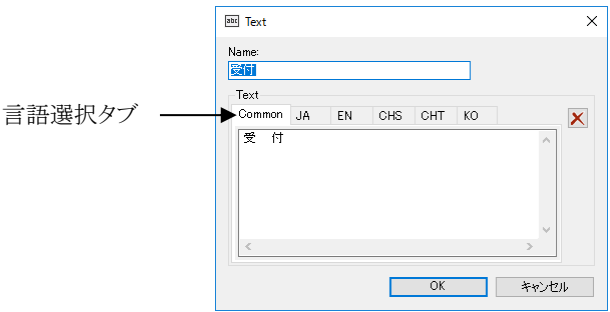


項目	説明
Name	言語の識別名を設定します。
Description	言語の表示名を設定します。
Font	この言語の既定のフォントを設定します。右側の▼をクリックして一覧から選択可能です。

◆ Texts フォルダ（文字列の情報）

言語ごとの文字列データである Text(文字列)が登録されています。

Text(文字列)には言語ごとに表示する文字列を設定します。

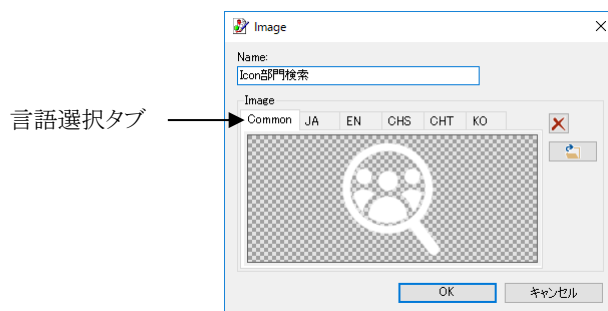


項目	説明
Name	文字列情報の識別名を設定します。
Text	言語ごとの文字列を設定します。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

◆ Images フォルダ（画像の情報）

言語ごとの画像データである Image（画像）が登録されています。

Image（画像）にはボタンの画像や会社のロゴなど頻繁に使用する画像を設定します。

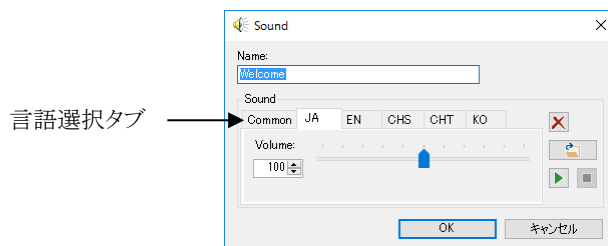


項目	説明
Name	画像の識別名を設定します。
Image 	言語ごとの画像を設定します。表示される画像は実際に登録されているサイズとは異なります。 “ファイルを開く”ダイアログボックスから登録・変更する画像ファイルを選択します。選択できる画像ファイルは、Windows ビットマップファイル又は JPEG、PNG 形式です。
「言語選択タブ」 	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。 「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

◆ Sounds フォルダ（音声の情報）

言語ごとの音声データである Sound（音声）が登録されています。

Sound（音声）にはコンテンツで使用する効果音やアナウンスなどの音声を設定します。



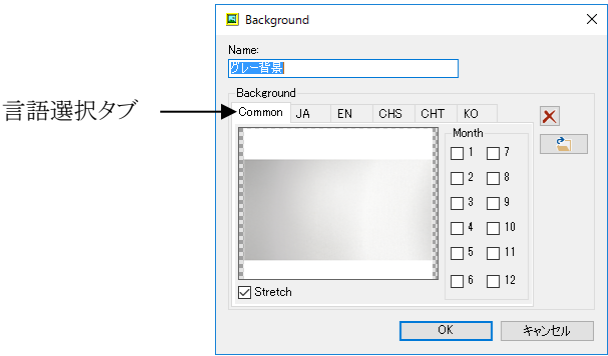
項目	説明
Name	音声の識別名を設定します。
Sound	言語ごとの音声を設定します。
Volume 	音声のボリュームを 0 から 200 の範囲で設定します。100 を基準に 0 が最小、200 が最大です。 “ファイルを開く”ダイアログボックスから登録・変更する音声ファイルを選択します。選択できる音声ファイルは、Windows WAV ファイル形式です。
 	登録されている音声を試聴するための再生と停止を行います。
「言語選択タブ」 	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。 「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

◆ Backgrounds フォルダ（背景の情報）

言語ごとの背景データである Background(背景)が登録されています。

Background(背景)にはコンテンツの背景として使用する画像データや日替わりで変更する場合の対象月を設定します。

※ 標準コンテンツでは使用していません。

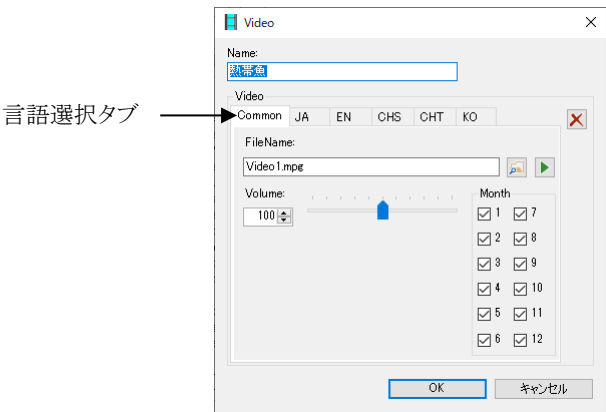


項目	説明
Name	背景の識別名を設定します。
Background	言語ごとの背景を設定します。表示される画像は実際に登録されているサイズとは異なります。
Stretch	背景の表示方法を設定します。チェックすると画像を画面全体に表示します。チェックしない場合、画像は登録されている大きさに画面全体に並べて敷き詰めます。
Month	背景を日替わりで表示させる場合の対象となる月を設定します。
	“ファイルを開く”ダイアログボックスから登録・変更する画像ファイルを選択します。選択できる画像ファイルは、Windows ビットマップファイル又は JPEG、PNG 形式です。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

◆ Videos フォルダ（動画の情報）

言語ごとの動画データである Video（動画）が登録されています。

Video（動画）にはコンテンツで再生する動画のファイル名や日替わりで変更する場合の対象月などを設定します。

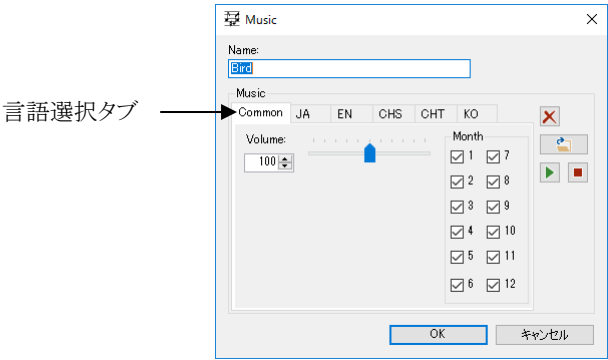


項目	説明
Name	動画の識別名を設定します。
Video	言語ごとの動画を設定します。表示される動画は実際に登録されているサイズとは異なります。
FileName	動画のファイル名を指定します。絶対パスまたはデータベースが存在するパスからの相対パスで指定します。データベースが存在するパスはシステムメンテナンス画面のタイトルバーに表示されたデータベースのパスから確認できます。
	“ファイルを開く”ダイアログボックスから登録・変更する動画ファイルを選択します。選択できる動画ファイルは、あらかじめ mpeg 形式※で C:\Program Files (x86)\ComConCall\Datas フォルダに保存しておきます。 ※注意： 動画ファイルは mpeg-1 または mpeg-4 形式のみ動作保証しております。他の形式の動画ファイルはご使用にならないでください。動作不良やフリーズの原因となる場合があります。
	FileName で指定された動画ファイルを別ウインドウで再生します。
Volume	音声のボリュームを 0 から 200 の範囲で設定します。100 を基準に 0 が最小、200 が最大です。
Month	動画を日替わりで表示させる場合の対象となる月を設定します。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

◆ Musics フォルダ（音楽の情報）

言語ごとの音楽データである Music(音楽) が登録されています。

Music(音楽)にはコンテンツで再生する音楽データや日替わりで変更する場合の対象月などを設定します。



項目	説明
Name	音楽の識別名を設定します。
Music	言語ごとの音楽を設定します。
Volume	音楽のボリュームを 0 から 200 の範囲で設定します。100 を基準に 0 が最小、200 が最大です。
Month	音楽を日替わりで再生させる場合の対象となる月を設定します。
	“ファイルを開く”ダイアログボックスから登録・変更する音楽ファイルを選択します。選択できる音楽ファイルは、Windows WAV ファイル形式です。
	登録されている音楽を試聴するための再生と停止を行います。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

4) Datas フォルダ（検索データの情報）

連絡先の検索などで使用されるデータです。

Element(画面要素)の DataLink 項目で関連付けした場合、そのパラメーター中で参照させる場合は[]記号(角括弧)で囲みます。

◆ Companies フォルダ（組織の情報）

システムで使用する組織データである Company(組織)が登録されています。ここに登録されたデータは Contacts(連絡先)の Company と連携します。

Company(組織)には言語ごとの表示名称を設定します。

項目	説明
ID	組織の識別 ID を設定します。
Description	表示名称を設定します。
Password	組織のパスワードを設定します。

◆ Categories フォルダ（分類の情報）

システムで使用する分類データである Category(分類)が登録されています。ここに登録されたデータは Contacts(連絡先)の Category と連携します。

Category(分類)には言語ごとの表示名称を設定します。

項目	説明
Name	分類の識別名を設定します。
Description	言語ごとの表示名称を設定します。
「言語選択タブ」	言語を切り替えます。登録のない言語は「Common」に登録された情報を使用します。
	「言語選択タブ」で選択された言語に関する登録を削除します。

◆ **Contacts フォルダ（連絡先の情報）**

連絡先の検索対象データである Contact (連絡先) が登録されています。

Contact (連絡先) には部署や担当者などの連絡先の所属やフリガナ、内線番号などを設定します。

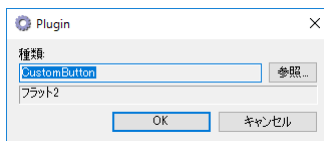
項目	説明
Name	連絡先の名称を設定します。
Language	連絡先の言語を設定します。右側の▼をクリックして Languages (言語) の一覧から選択可能です。
Category	連絡先の分類を設定します。右側の▼をクリックして Categories (分類) の一覧から選択可能です。
Company	連絡先の組織を設定します。右側の▼をクリックして Companies (組織) の一覧から選択可能です。
Sections	組織名称を含めた上位の連絡先の名称を設定します。
Phonetic	連絡先のフリガナを設定します。検索時に全角と半角や大文字と小文字、平仮名と片仮名の区別はされません。
Color, Alpha	連絡先の色を設定します。左側の色表示部分をクリックすると、“色の指定”ダイアログボックスが開きますので、一覧の中から目的の色を選択します。 Alpha は文字列の色の透明度を 1~255 の範囲で設定します。数値が小さくなるほど透明度が高くなります。
PhoneNumber	連絡先の電話番号を設定します。
HostName	連絡先の PC 名または IP アドレスを設定します。改行して複数の PC 名または IP アドレスが登録可能です。
LoginUser	連絡先のログインユーザーを設定します。改行して複数のログインユーザーが登録可能です。
Options	連絡先の追加情報を設定します。オプション機能やコンテンツのカスタマイズなどの仕様により必要な情報を登録します。
EffectiveDate	連絡先を有効にする日時を設定します。空白は現在有効な内線データです。データメンテナンスで 2024 年 4 月 1 日 0 時の更新予約をすると、「2024/04/01 00:00:00」と表示されます。

5) Others フォルダ（その他の情報）

◆ Plugins フォルダ（拡張機能の情報）

Element (画面要素) を描写するための拡張機能である Plugin (拡張機能) が登録されています。

Plugin (拡張機能) には専用の dll ファイルを設定します。

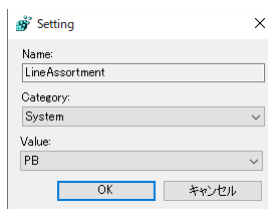


◆ Settings フォルダ（設定の情報）

システムが動作するための基本的な設定データである Setting (設定) が登録されています。

Setting (設定) には識別名と値を設定します。Setting (設定) には既定のシステム設定データ (一覧の種類欄に「システム」と表示) と、主にコンテンツの動作を制御するユーザー定義のデータ (一覧の種類欄に「ユーザー」と表示) があります。何れのデータも設定する内容によってはコンコンコールが正常に動作しなくなる場合もありますので、設定内容を変更される場合は各項目の意味をよく理解した上で行ってください。

Setting (設定) は変数と同様に扱われ、Element (画面要素) の各項目内やスクリプト内で使用することができます。



項目	説明
Name	設定の識別名を設定します。新規作成時はマウスの右クリックで既定のシステム設定データの一覧から選択可能です。
Category	設定の分類を設定します。
Value	設定値を設定します。

以下にシステム設定データの一覧を示します。

名前	値の説明
AutoReboot	システムの自動再起動の間隔を 1 日 (Day)、1 週間 (Week)、自動再起動しない (None) の何れかで設定します。
AutoRebootTime	システムの自動再起動を行う時間を設定します。
BackupHourSpan	データベースが変更されてからバックアップを行うまでの猶予時間を設定します。
ButtonShadowAlpha	画面に表示するボタンの影の透明度 (0: 透明 ~ 255: 不透明) を設定します。
CallLogDBFilename	通話履歴データを保存するデータベースのパスを設定します。
CommPort	インターフェイスボードと通信するポート番号を設定します。インターフェイスボードを使用しない場合は 0 を設定します。
CommPort2	インターフェイスボードと通信するポート番号を設定します。インターフェイスボードを使用しない場合は 0 を設定します。
ConnectSensitivity	極性反転検知センサーの反応速度をミリ秒単位で設定します。極性反転検知を使用しない場合は 0 を設定します。
ContactControlAssign	接点出力に使用する制御信号を DTR、RTS の何れかで設定します。

名前	値の説明
ContentsResolution	画面コンテンツの解像度を設定します。(デフォルト 1080×1920 (Full-HD))
ContinuousPlayback	動画の繰り返し再生の有効(True)/無効(False)を設定します。
CurrentSensorEnabled	極性反転検知センサーの種類が電流検知の場合はTrue、電圧検知の場合はFalseを設定します。
DataUpdateReservationEnabled	データ更新予約の有効(True)/無効(False)を設定します。
DetectLineReverse	回線の極性反転検出機能の有効(True)/無効(False)を設定します。
DialDeregulation	発信規制を解除する(True)/しない(False)を設定します。
DoubleBackupDaySpan	データベースの2重バックアップを行うまでの日数を設定します。0 または設定が無い場合は2重バックアップを行いません。
EventLogEnabled	動作ログを出力しない(None)/イベントのみ(Event)/詳細(Detail)を設定します。
ExcludeCurrentLanguage	選択されている Language(言語)を一覧から除外する(True)/しない(False)を設定します。
ExcludeCurrentCompany	選択されている Company(組織)を一覧から除外する(True)/しない(False)を設定します。
ExcludeCurrentCategory	選択されている Category(分類)を一覧から除外する(True)/しない(False)を設定します。
EXSensorEnabled	オプションのセンサー入力の有効(True)/無効(False)を設定します。
ExternalDatabaseFileNames	外部データベースのファイル名を設定します。
ExternalTextFileName	外部出力テキストファイルのファイル名を設定します。
ExternalTextFilePath	外部出力テキストファイルのパスを設定します。
FlipEffectSpeed	画面の切り替え効果アニメーションのコマ数を指定します。
HockSensorEnabled	現在は使用しません。(旧バージョンのシステムで使用)
IFBoardType	使用するインターフェイスボードのタイプを CA-B-8/CA-B-9 の何れかで設定します。
LineAssortment	接続されている電話回線のダイヤル方式をプッシュトーン(PB)、ダイヤルパルス(DP10 または DP20)の何れかで設定します。
MasterVolume	音声出力マスターボリュームを設定します。
ModemInitialize	モデムの初期化用 AT コマンドを設定します。
MotionDetectInterval	カメラ映像による動体検知の判定間隔をミリ秒単位で設定します。
MotionDetectLevel	カメラ映像による動体検知の判定レベルを設定します。
MotionDetectMaskImage	カメラ映像による動体検知のマスク画像ファイル名を設定します。
MotionDetectSuspendSecond	カメラ映像による動体検知の基準画像更新抑制時間を秒単位で設定します。
MotionDetectThreshold	カメラ映像による動体検知の画像変化量閾値を設定します。
MuteBGM	カスタマイズ対応用に予約されています。
MuteGuidance	カスタマイズ対応用に予約されています。
MuteTouch	カスタマイズ対応用に予約されています。
NoStatusWindow	起動画面(ステータスウィンドウ)の表示(True)/非表示(False)を設定します。
OffHockSensitivity	受話器のフック検知センサーの反応速度をミリ秒単位で設定します。受話器のフック検知を使用しない場合は 0 を設定します。
OutputContactA	カスタマイズ対応用に予約されています。
OutputContactB	カスタマイズ対応用に予約されています。
OutputContactC	カスタマイズ対応用に予約されています。

名前	値の説明
RegulationNumber	発信規制をする番号を設定します。
ScheduleEnabled	スケジュール運転管理の有効(True)/無効(False)を設定します。
SendIOStatusInterval	ネットワーク通信でインターフェイスボードの各センサーの状態を送出する間隔をミリ秒単位で設定します。
SensorSensitivity	人感センサーの反応速度がミリ秒単位で設定します。人感センサーを使用しない場合は 0 を設定します。
SensorType	人感センサーの種類を動体検知 (MotionDetect) / インターフェースボード (IFBoard) の何れかで設定します。
ServerPort	ネットワーク通信を行う TCP ポート番号を設定します。
ShowCursor	マウスカーソルを常時表示する(True)/しない(False)を設定します。
StoragePath	カスタマイズ対応の為に予約されています。
SystemPassword	システム稼動時に 3 隅タッチにより表示されるシステムメニューを表示するためのパスワードを指定します。(システムメニューからパスワードを変更した場合に表示されます。システムメニューについては取扱説明書「 2 4) 画面の3点タッチ(システムメニュー) 」を参照してください。)
SystemShutdownEnabled	スケジュール運転管理が有効な場合にシステム(OS)シャットダウンの有効(True)/無効(False)を設定します。

3 パラメータについて

Contents(画面コンテンツ)の Form(画面)や Element(画面要素)、WebPage(Web ページ)の各項目に記述するパラメーターには変数や Resource(データリソース)、Data(検索データ)を指定することができます。また Form(画面)と Element(画面要素)のイベント項目に記述するスクリプト中にも同様に変数や Resource(データリソース)、Data(検索データ)を埋め込むことができます。

1) 変数

通常変数はスクリプト中で「Set」コマンドにより定義され、パラメーター中で参照することでその値を利用することができます。また Setting(設定)や後述のシステム変数も通常の変数として参照することができます。

変数の識別名は大文字/小文字の区別はされません。

変数は配列の形式をとることができ、後述の変数関数を利用して配列の操作ができます。

◆ 参照方法

変数の識別名を%記号で囲みます。

例)：変数「Variable」に値「サンプル」が設定されている場合

パラメーター値	参照結果
これは%Variable%です。	これはサンプルです。

◆ システム変数

変数にはシステムが自動的に値を設定する変数や、システムの動作を制御するための変数があります。これらをシステム変数と呼びます。

以下にシステム変数の一覧を示します。「設定」に○が付いたシステム変数はスクリプトにより変更が可能です。

システム変数名	内容	設定
ActiveForm	現在表示されている Form(画面)の識別名。	
Category	選択する Category(分類)の識別名。	○
CategoryDescription	選択された Category(分類)の Language で指定された Description。	
CategoriesIndex	現在抽出されている Categories(分類)の参照位置。	○
Color	選択された Contacts(連絡先)の Color。	
Company	選択する Company(組織)の識別名。	○
CombineSeparator	配列要素を結合する場合の区切り文字。	○
DataCount	現在抽出されている Contacts(連絡先)の数。	
DataIndex	現在抽出されている Contacts(連絡先)の参照位置。	○
Day	現在日付の日。('01'～'31')	
HostNames	選択された連絡先(Contacts)の HostNames の一つ目の値。※2	○
HostNamesFilter	連絡先(Contacts)を絞り込むための HostNames 検索パターン※1。	○
Hour	現在時刻の時。('00'～'23')	
HTMLDocumentTitle	HTML(Web ページ)で表示されたコンテンツのタイトル	
Index	直前に選択された Contacts(連絡先)の Index。	○
IOOffHook	受話器のフック状態。('0'=オンフック、'1'=オフフック)	
IOOnHook	受話器のフック状態。('0'=オフフック、'1'=オンフック)	

システム変数名	内容	設定
IOSensor	人感センサーの状態。(「0」=すべての人感センサーが非検知、「1」=何れかの人感センサーが検知)	
IOSensor1	人感センサー1の状態。(「0」=非検知、「1」=検知)	
IOSensor2	人感センサー2の状態。(「0」=非検知、「1」=検知)	
IOSensorEx	人感センサー3(オプションセンサー)の状態。(「0」=非検知、「1」=検知)	
IOTalking	通話状態。(「0」=非通話、「1」=通話)	
IsPhoneNumber	システム変数 PhoneNumbers の一つ目の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsPhoneNumbers	システム変数 PhoneNumbers の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsColor	システム変数 Color の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsCompany	システム変数 Company の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsContactAddress	システム変数 PhoneNumbers、HostNames、LoginUsers いずれかの配列要素先頭の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsContactAddresses	システム変数 PhoneNumbers、HostNames、LoginUsers いずれかの値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsLoginUser	システム変数 LoginUsers の一つ目の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsLoginUsers	システム変数 LoginUsers の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsLowerData	選択された連絡先(Contacts)の下階層の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsMessageAddress	システム変数 HostNames、LoginUsers いずれかの配列要素先頭の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsMessageAddresses	システム変数 HostNames、LoginUsers いずれかの値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsName	システム変数 Name の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsOption	システム変数 Options の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsOptions	システム変数 Options の一つ目の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsPhonetic	システム変数 Phonetic の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsSection	システム変数 Sections の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
IsSections	システム変数 Sections の一つ目の値の有無。(「0」=無、「1」=有)	
LoginUsers	選択された連絡先(Contacts)の LoginUsers 配列要素先頭の値。※2	○
LoginUsersFilter	連絡先(Contacts)を絞り込むための LoginUsers 検索パターン※1。	○
Minute	現在時刻の分。(「00」～「59」)	
ModemReturn	モデムの応答メッセージ。	
Month	現在日付の月。(「01」～「12」)	
Name	選択された連絡先(Contacts)の Name。	○
NameFilter	連絡先(Contacts)を絞り込むための Name 検索パターン※1。	○
Options	選択された連絡先(Contacts)の Options 配列要素先頭の値。※2	○
OptionsFilter	連絡先(Contacts)を絞り込むための Options 検索パターン※1。	○
Page	「Calc」コマンドにより計算されたページ数	
Pages	「Calc」コマンドにより計算された総ページ数	
PhoneNumbers	選択された連絡先(Contacts)の PhoneNumbers 配列要素先頭の値。※2	○
PhoneNumbersFilter	連絡先(Contacts)を絞り込むための PhoneNumbers 検索パターン※1。	○

3.パラメータについて

システム変数名	内容	設定
Second	現在時刻の秒。 (「00」～「59」)	
Sections	選択された連絡先(Contacts)の Sections 配列要素先頭の値。※2	○
SectionsFilter	連絡先(Contacts)を絞り込むための Sections検索パターン※1。	○
SectionsStartLevel	システム変数「Sections」を結合する際の開始レベル。	○
SectionsSeparator	システム変数「Sections」を結合する際の区切り文字	○
Week	現在日付の曜日。(「0」=日曜日～「6」=土曜日)	
Year	現在日付の年。(「0001」～「9999」)	

※1 検索パターン

パターンマッチングが利用できます。「*」は任意の 1 文字以上の文字にマッチします。単独で「!」を指定した場合は空文字(空欄)とマッチします。

※2 配列形式

配列形式の変数は単独で参照した場合先頭の要素が変数の値として扱われます。

◆ 変数関数

変数の値の変換や成形するための関数を変数関数と呼びます。変数関数は変数の参照方法と同様%記号で囲み、「%変数関数名(変数識別名,パラメータ...)」の構文で記述します。

例): 変数「Variable」に値「日/月/火/水/木/金/土」(/は配列区切り)が設定されている場合

パラメーター値	参照結果
今日は%Part(Variable,1)%曜日です。	今日は月曜日です。

以下に変数関数の一覧を示します。

変数関数名	構文(例)	機能
Count	%Count(変数名)%	変数配列の要素数を取得します。
Elements	%Elements(画面要素名).項目名%	画面要素(Element)の項目名の値を取得します。
First	%First(変数名,位置)	配列変数の先頭の要素から指定された位置の値を取得します。位置が省略された場合は配列要素の先頭の値を取得します。
Join	%Join(変数名,区切り文字,開始位置,個数)%	配列変数の要素を一つの文字列として結合します。 区切り記号が省略された場合 CombineSeparator 変数に設定された文字が使用されます。 開始位置・個数が省略された場合全ての要素の値が結合されます。
Last	%Last(変数名,位置)%	配列変数の最後の要素から指定された位置の値を取得します。位置が省略された場合は配列要素の最後の値を取得します。
Length	%Length(変数名)%	変数の値の文字数を取得します。
Part	%Part(変数名,開始位置,個数)%	配列変数の要素を開始位置から始まる個数の配列として取得します。個数に 0 を指定した場合は開始位置以降全ての要素を取得します。個数を省略した場合は開始位置の要素の値を取得します。
Raw	%Raw(変数名)%	配列変数の要素をそのまま取得します。
配列変数名	%配列変数名(位置)%	配列変数の指定された位置の要素の値を取得します。

2) Resource (データリソース)

Resources フォルダ (データリソースの情報) に登録された各種データは、パラメーター中で参照することでその値を利用することができます。

Resource (データリソース) の識別名は大文字/小文字の区別はされません。

◆ 参照方法

Resource (データリソース) の識別名を [] 記号 (角括弧) で囲みます。

例) : Resource (データリソース) である Text (文字列) の識別名が「メッセージ」というデータの Text 項目に「いらっしゃいませ。」が設定されている場合

パラメーター値	参照結果
ようこそ[メッセージ]	ようこそいらっしゃいませ。

3) DataLink (検索データ)

Element (画面要素) において DataLink 項目で関連付けられた連絡先などの検索データは、パラメーター中で参照することでその値を利用することができます。(識別名は大文字/小文字の区別はされません)

◆ 参照方法

識別名を { } 記号 (波括弧) で囲みます。

例) : Element (画面要素) の DataLink に「Contacts」が指定されており、割り当てられた Contact (連絡先) の Name 項目が「総務部」の場合

パラメーター値	参照結果
{Name} を呼び出す。	総務部を呼び出す。

4) スクリプト

スクリプトは複数のコマンド行が記述されたテキストであり、コマンド行は 1 つの「コマンド」とそのコマンドに必要な複数のパラメーターで構成されます。使用できるコマンドの一覧は次項の「**コマンド一覧**」を参照してください。

一般的なコマンド行の書式は以下の通りです。

[コマンド名] [] [パラメーター1] [] [パラメーター2] [] [パラメーター3] ...

- ・ コマンド行のコマンド名と各パラメーターは空白文字列で区切って記述します。但しコマンド行の先頭にある空白文字列は無視されます。
- ・ セミicolon (「;」) で始まるコマンド行はコメントとして扱われ実行時には無視されます。
- ・ コマンド名及びパラメーターには変数を使用することができます。変数は変数名をパーセント記号 (「%」) で囲むことで実行時にその変数の値に置き換えられ実行されます。また、DataLink により内線データと関連付けられた Element (画面要素) に設定するスクリプトでは、内線データの項目名を波括弧 (「{ }」) で囲むことでその内線データの項目の値に置き換えられます。

◆ コマンド一覧

スクリプト中に使用できるコマンドの一覧を以下に示します。

コマンド

パラメータ	説明
Add	変数の値に指定された数値を加算します。
変数名	対象の変数名を記述します。
値	加算する値を記述します。
Await	指定された秒数後にスクリプトを実行します。
秒	コマンドを実行する経過時間を指定します。
コマンド	実行するコマンドを指定します。
パラメーター...	実行するコマンドのパラメーターを指定します。
BGM	Music(音楽)を BGM(環境音楽)として再生/停止します。
スイッチ	以下の一覧のいずれかを記述します。 - On BGM を再生します。 - Off BGM を停止します。
BGV	Video(動画)を BGV(環境動画)として再生/停止します。
スイッチ	以下の一覧のいずれかを記述します。 - On BGV を再生します。 - Off BGV を停止します。
再生領域	BGV を再生する画面領域を「Left,Top,Width,Height」の形式で記述します。(省略可能)
Calc	既定の計算を実行します。
種類	以下の一覧のいずれかを記述します。 ContactsPage 一覧表示において 1 ページあたりパラメーター1 で指定された数分のデータを表示する場合の総ページ数と現在ページ数を、システム変数「DataCount」とシステム変数「DataIndex」を元に計算し、結果をそれぞれ変数「Pages」と変数「Page」に格納します。 LanguagesPage 一覧表示において 1 ページあたりパラメーター1 で指定された数分のデータを表示する場合の総ページ数と現在ページ数を、システム変数「LanguagesCount」とシステム変数「LanguagesIndex」を元に計算し、結果をそれぞれ変数「Pages」と変数「Page」に格納します。 CategoriesPage 一覧表示において 1 ページあたりパラメーター1 で指定された数分のデータを表示する場合の総ページ数と現在ページ数を、システム変数「CategoriesCount」とシステム変数「CategoriesIndex」を元に計算し、結果をそれぞれ変数「Pages」と変数「Page」に格納します。
パラメーター	種類の説明で指示された値を記述します。

コマンド	パラメータ	説明
Change		システムの各種状態を変更します。
種類		以下の一覧のいずれかを記述します。
	Background	背景画像を Backgrounds (背景)の登録順に従い変更します。 パラメーター1 で識別名を指定して任意の Background (背景)に変更することができます。(省略可能) パラメーター2 で色 (Black 、 Red 等の色名または # から始まる8桁または6桁の16進数)を指定してカラーフィルターとすることができます。(省略可能)
	BackColor	背景色をパラメーター1 で指定された色 (Black 、 Red 等の色名または # から始まる8桁または6桁の16進数)に変更します。
	BGM	環境音楽を BGMs (環境音楽)の登録順に従い変更します。 パラメーター1 で識別名を指定して任意の BGM (環境音楽)に変更することができます。(省略可能)
	BGV	環境動画を BGVs (環境動画)の登録順に従い変更します。 パラメーター1 で識別名を指定して任意の BGV (環境動画)に変更することができます。(省略可能)
	Timeout	現在の Form (画面)の Timer 値をパラメーター1 で指定された値に変更します。
	パラメーター1	種類の説明で指示された値を記述します。
	パラメーター2	種類の説明で指示された値を記述します。
Clear		変数をクリア(削除)します。
変数名		対象の変数名を記述します。
CloseProcess		Process コマンドによって起動した外部実行モジュールを終了します。
識別名		Process コマンドで指定した識別名を記述します。
Combine		変数に値(複数)を配列化し設定します。
変数名		対象の変数名を記述します。
値 (複数)		設定する複数の値を記述します。
Concat		変数の値に指定された文字を結合します。
変数名		対象の変数名を記述します。
文字列		結合する文字列を記述します。
CutLeft		変数の値を指定された文字数だけ左から削除します。
変数名		対象の変数名を記述します。
文字数		削除する文字数を記述します。
CutRight		変数の値を指定された文字数だけ右から削除します。
変数名		対象の変数名を記述します。
文字数		削除する文字数を記述します。

3.パラメータについて

コマンド	パラメータ	説明
Dial		電話回線にダイヤル発信します。
パラメーター		以下の一覧のいずれかを記述します。
	(省略)	変数「CallNumbers」の値の 1 行目の電話番号へダイヤル発信します。
	Next	変数「CallNumbers」の値の 2 行目の電話番号へダイヤル発信します。
	(電話番号)	指定された電話番号へダイヤル発信します。
Div		変数の値を指定された数値で除算します。
変数名		対象の変数名を記述します。
値		除算する値を記述します。
Else		If コマンドまたは ElseIf コマンドで条件が満たされない場合に実行するコマンド行の始まりを示します。
ElseIf		If コマンドで条件が満たされない場合に、再度指定された条件式を評価し、条件が満たされた場合に実行するコマンド行の始まりを示します。条件式の詳細は If コマンドを参照してください。
パラメーター1		If コマンドを参照してください。
比較演算子		If コマンドを参照してください。
パラメーター2		If コマンドを参照してください。
EndIf		If コマンド、ElseIf コマンド、Else コマンドにより実行するコマンド行の終わりを示します。
Execute		外部アプリケーションを起動し、終了するまでメインウィンドウを非表示にして待機します。
ファイル名		外部アプリケーションの実行モジュールファイル名を記述します。
引数		外部アプリケーションに渡すコマンドライン引数を記述します。
Fix		変数の値の小数点以下を切り捨てます。
変数名		対象の変数名を記述します。
Get		変数の値を取得し別の変数へ格納します。
変数名 1		値を取得する変数名を記述します。
変数名 2		値を格納する変数名を記述します。省略した場合は変数「GetResult」に値を格納します。
GetData		現読み込まれている Contacts(連絡先) データからシステム変数「DataIndex」が指すレコードの値を項目名と同名の変数へ格納します。
Halt		インターフェイスボードの各種センサー検知によるイベントの発生を一時的に無効化します。無効化が解除された時点で各種センサーの状態のイベントが発生します。
種類		以下の一覧のいずれかを記述します。
	Sensor	人感センサー全てのイベント発生を無効化します。
	Sensor1	人感センサー1 のイベント発生を無効化します。
	Sensor2	人感センサー2 のイベント発生を無効化します。
	SensorEX	人感センサー3(オプションセンサー)のイベント発生を無効化します。
	OffHock	受話器のフック検知センサーのイベント発生を無効化します。
	OnHock	受話器のフック検知センサーのイベント発生を無効化します。
	Handset	受話器のフック検知センサーのイベント発生を無効化します。
	Connect	極性反転検知センサーのイベント発生を無効化します。
	Disconnect	極性反転検知センサーのイベント発生を無効化します。
	Talking	極性反転検知センサーのイベント発生を無効化します。
時間		無効化する秒数を記述します。

コマンド	パラメータ	説明
Hide		画面に表示されている各種オブジェクトを非表示にします。
種類		以下の一覧のいずれかを記述します。
	Background	背景画像を非表示にします。パラメーターは使用しません。
	MessageBox	ステータスウィンドウを非表示にします。パラメーターは使用しません。
	Element	パラメーターで指定された Element (画面要素) を非表示にします。
	Screen	メインウィンドウを非表示にします。パラメーターは使用しません。
パラメーター		種類の説明で指示された値を記述します。
HideMessageBox		ステータスウィンドウを非表示にします。
History		画面表示の記録を操作します。
種類		以下の一覧のいずれかを記述します。
	Back	記録された画面をひとつ遡り表示します。 パラメーター1 で画面切り替え効果を指定できます。
	Forward	記録された画面をひとつ進め表示します。 パラメーター1 で画面切り替え効果を指定できます。
	Discard	直前の記録を破棄し画面を復元します。 パラメーター1 で画面切り替え効果を指定できます。
	Clear	全ての記録をクリア (削除) します。
	Renew	過去の記録を破棄し現在からの記録を開始点とします。
	Record	現在表示中の画面を記録します。
パラメーター1		種類の説明で指示された値を記述します。
HTMLExec		HTML (Web ページ) の HTML ドキュメント (IE コンポーネント) に対しコマンドを実行させます。 コマンドの詳細についてはインストールされている Internet Explorer のドキュメントを参照してください。
識別名		対象の HTML (Web ページ) の識別名を記述します。
コマンド		HTML ドキュメントに実行させるコマンドを記述します。
パラメーター		HTML ドキュメントに実行させるコマンドのパラメーターを記述します。
If		条件式を評価し、条件が満たされた場合に実行するコマンド行の始まりを示します。 条件式の評価は基本的に文字列での比較となりますが、パラメーター1 とパラメーター2 が共に数値として認識できる場合は数値としての比較が行われます。 パラメーター1 が真偽値 (True/False または 1/0) であれば比較演算子およびパラメーター2 を省略できます。
パラメーター1		パラメーター2 と比較する任意の値を記述します。
比較演算子		以下の一覧のいずれかを記述します。
	=,==	パラメーター1 とパラメーター2 が等しいとき条件を満たします。
	<	パラメーター1 がパラメーター2 より小さいとき条件を満たします。
	>	パラメーター1 がパラメーター2 より大きいとき条件を満たします。
	<=,=<	パラメーター1 がパラメーター2 以下のとき条件を満たします。
	>=,=>	パラメーター1 がパラメーター2 以上のとき条件を満たします。
	!=,<>	パラメーター1 とパラメーター2 が異なるとき条件を満たします。
	Like	パラメーター1 がパラメーター2 のパターンに一致するとき条件を満たします。 (パターン文字:「*」0 個以上の文字、「?」任意の一文字)
パラメーター2		パラメーター2 と比較する任意の値を記述します。

3.パラメータについて

コマンド	パラメータ	説明
Interrupt		イベント発生時に実行途中のスクリプトに割り込み、このコマンド以降のスクリプトを実行します。
	パラメーター1	以下の一覧のいずれかを記述します。 (省略) イベント発生前に未実行であったスクリプトを破棄します。 Keep このコマンドが実行された後、イベント発生前に未実行であったスクリプトを実行します。
ITServer		統合サーバー (CCCITServer) に対しデータを送信します。
	パラメーター	統合サーバーに渡すデータを記述します。
KillProcess		Process コマンドによって起動した外部実行モジュールを強制終了します。
	識別名	Process コマンドで指定した識別名を記述します。
Let		変数にほかの変数の値を設定します。
	変数名 1	対象の変数名を記述します。
	変数名 2	設定する変数名を記述します。
	パラメーター	「Save」を記述すると設定した値をデータベースに保存します。(省略可能)
Link		新しい Form (画面) を表示します。
	識別名	新しい Form (画面) の識別名を記述します。
	効果	以下の一覧のいずれかを記述します。 (省略) 新しい Form (画面) を表示します。(アニメーションなし) Clear 一旦背景画像のみを表示した後、新しい Form (画面) を表示します。 Fade 新しい Form (画面) がフェードインします。 SlideIn 新しい Form (画面) が右からスライドインします。 SlideOut 現在の Form (画面) が左へスライドアウトします。 ZoomIn 新しい Form (画面) がタッチ (クリック) した位置から現れます。 ZoomOut 現在の Form (画面) がタッチ (クリック) した位置へ向かって消えます。
Load		各種データを読み込みます。
	種類	以下の一覧のいずれかを記述します。 Data データ抽出用の変数に設定されている条件で Contacts (連絡先) を読み込みます。(識別名は使用しません) Element 識別名で指定された Element (画面要素) を読み込み画面に表示します。 HTML 識別名で指定された HTML (Web ページ) を読み込み画面に表示します。
	識別名	読み込むデータを特定する識別名を記述します。
Monitor		ディスプレイモニタの電源 (省電力モード) の設定を行います。
	スイッチ	以下の一覧のいずれかを記述します。 On ディスプレイモニタの電源を On にします。(省電力モード解除) Off ディスプレイモニタの電源を Off にします。(省電力モード設定)

コマンド	パラメータ	説明
Move		各種データの位置を移動します。
種類		以下の一覧のいずれかを記述します。
	Element	識別名で指定された Element (画面要素) の表示位置を移動します。 パラメーター1 で識別名を指定します。 パラメーター2 で画面領域を「Left,Top,Width,Height」の形式で指定します。
	DataIndex	有効な Contacts (連絡先) の参照位置 (システム変数「DataIndex」の値) を移動します。 パラメーター1 で現在位置からの相対移動量を指定します。
	LanguagesIndex	有効な Languages (言語) の参照位置 (システム変数「LanguagesIndex」の値) を移動します。 パラメーター1 で現在位置からの相対移動量を指定します。
	CategoriesIndex	有効な Categories (連絡先) の参照位置 (システム変数「CategoriesIndex」の値) を移動します。 パラメーター1 で現在位置からの相対移動量を指定します。
パラメーター1		種類の説明で指示された値を記述します。
パラメーター2		種類の説明で指示された値を記述します。
MoveDataIndex		システム変数 DataIndex の参照位置を指定された相対位置へ移動します。
値		移動する相対位置の値を記述します。
Mul		変数の値を指定された数値で乗算します。
変数名		対象の変数名を記述します。
値		乗算する値を記述します。
Navigate		HTML (Web ページ) で表示する Web ページの URL を変更します。
識別名		対象の HTML (Web ページ) の識別名を記述します。
URL		表示する Web ページの URL を記述します。
OffHook		擬似的に受話器を取った状態にします。
OnHook		回線を切断します。
PadLeft		変数の値を指定された文字数になるよう左に文字を追加します。
変数名		対象の変数名を記述します。
文字数		目的の文字数を記述します。
パラメーター		追加する文字を記述します。省略した場合は空白が追加されます。
PadRight		変数の値を指定された文字数になるよう右に文字を追加します。
変数名		対象の変数名を記述します。
文字数		目的の文字数を記述します。
パラメーター		追加する文字を記述します。省略した場合は空白が追加されます。
ProgramEnd		コンコンコールを終了します。
パラメーター		省略可能です。Shutdown を指定するとシステムのシャットダウンを行います。

3.パラメータについて

コマンド	パラメータ	説明
Process		パラメーターで指定された実行モジュールを起動します。コンコンコールの実行は継続します。
	識別名	実行モジュールを特定する識別名を記述します。
	ファイル名	実行モジュールのファイル名を記述します。
	パラメーター	実行モジュールに渡す起動コマンドラインオプションを記述します。
RaiseEvent		Form のイベントを強制的に発生させます。
	種類	イベント名 (Activate、Touch、TimeOut、SensorIn、SensorOut、OffHock、OnHock、Connect、Disconnect、Modem のいずれか)を記述します。
ReceiveModem		モデムからの応答を待ちます。
Refresh		画面を再描画します。
Reset		各種状態をリセットします。
	種類	以下の一覧のいずれかを記述します。 Application コンコンコールのメインプログラムを再起動します。 Events 実行待ちのスクリプトを破棄します。 Timer 無操作時間をリセットします。 System コンピューターを再起動します。 Language Language(言語)を初期値(最初に登録されたデータ)にリセットします。 Category Category(分類)を初期値(最初に登録されたデータ)にリセットします。
Rotate		配列変数の先頭要素を末尾に移動します。変数名に ContactAddresses を指定した場合、連絡先のシステム変数 (PhoneNumbers,HostNames,LoginUsers)を同時に処理します。
	変数名	対象の変数名を記述します。
Round		変数の値を四捨五入します。
	変数名	対象の変数名を記述します。
	桁数	四捨五入する小数点以下の桁数を記述します。
Save		変数の値をデータベースに保存します。
	変数名	対象の変数名を記述します。
Schedule		スケジュール運転管理(CCCSchedule)に対しデータを送信します。
	パラメーター	スケジュール運転管理に渡すデータを記述します。

コマンド	パラメータ	説明
SendCommControl	パラメーター	インターフェイスボードの制御線の制御を行います。 以下の一覧のいずれかを記述します。 SETRTS インターフェイスボード(メイン)の RTS 信号線を On にします。 CLRTS インターフェイスボード(メイン)の RTS 信号線を Off にします。 SETDTR インターフェイスボード(メイン)の DTR 信号線を On にします。 CLRDTR インターフェイスボード(メイン)の DTR 信号線を Off にします。 SETMAINRTS インターフェイスボード(メイン)の RTS 信号線を On にします。 CLRMAINRTS インターフェイスボード(メイン)の RTS 信号線を Off にします。 SETMAINDTR インターフェイスボード(メイン)の DTR 信号線を On にします。 CLRMAINDTR インターフェイスボード(メイン)の DTR 信号線を Off にします。 SETSUBRTS インターフェイスボード(サブ)の RTS 信号線を On にします。 CLRSUBRTS インターフェイスボード(サブ)の RTS 信号線を Off にします。 SETSUBDTR インターフェイスボード(サブ)の DTR 信号線を On にします。 CLRSUBDTR インターフェイスボード(サブ)の DTR 信号線を Off にします。
SendControl	種類	インターフェイスボードの制御を行います。 以下の一覧のいずれかを記述します。 Audio 電話回線への音声出力状態を変更します。 Contact1 接点出力1の出力状態を変更します。 Contact2 接点出力2の出力状態を変更します。 Detect 回線極性検知の状態を変更します。 Handset 受話器の回線への接続状態を変更します。 Speaker スピーカーの音声出力状態を変更します。
	スイッチ	以下の一覧のいずれかを記述します。 On 状態を On(有効)に設定します。 Off 状態を Off(無効)に設定します。
	時間	種類で「Contact1」または「Contact2」が指定された場合に、状態が復帰するまでの秒数を記述します。省略または「0」を記述した場合は状態の復帰は行いません。
SendModem	AT コマンド	インターフェイスボードのモデムに対し AT コマンドを送ります。 モデムに送る AT コマンドを記述します。
SendProcess	識別名	「Process」コマンドにより起動した実行モジュールに対しデータを送信します。 実行モジュールを特定する識別名を記述します。
	パラメーター	実行モジュールに渡すデータを記述します。
SendSecket	パラメーター	ネットワーク通信で接続されたソケットにデータを送信します。 送信するデータを記述します。
SendWinMessage	識別名	WM_COPYDATA メッセージを送信します。 送信先を識別するウィンドウタイトルを記述します。
	パラメーター	送信するデータを記述します。 COPYDATA 構造体に設定される値は以下の通りです。 dwData 「1」固定 cbData lpData のバイト数 lpData UTF-8 でエンコードしたパラメーターで指定された文字列

3.パラメータについて

コマンド	パラメータ	説明
Set		変数に値を設定します。
	変数名	対象の変数名を記述します。
	値	設定する値を記述します。
	パラメーター	「Save」を記述すると設定した値をデータベースに保存します。(省略可能)
Shift		配列変数の先頭要素を削除します。変数名に ContactAddresses を指定した場合、連絡先のシステム変数(PhoneNumbers,HostNames,LoginUsers)を同時に処理します。
	変数名	対象の変数名を記述します。
Shrink		配列変数の最終要素を削除します。変数名に ContactAddresses を指定した場合、連絡先のシステム変数(PhoneNumbers,HostNames,LoginUsers)を同時に処理します。
	変数名	対象の変数名を記述します。
Show		画面に表示される各種オブジェクトを表示します。
	種類	以下の一覧のいずれかを記述します。 Background 背景画像を表示します。 パラメーター1 に背景画像 (Background) の識別名を指定することで任意の背景画像を表示できます。 パラメーター2 は使用しません。 MessageBox ステータスウィンドウを表示します。 パラメーター1 で指定された文字列がステータスウィンドウ内に表示されます。 パラメーター2 は使用しません。 Element Element (画面要素) を表示します。 パラメーター1 に表示する Element (画面要素) の識別名を指定します。 パラメーター2 に表示する領域を「Left,Top,Width,Height」の形式で指定します。(省略可能) Screen メインウィンドウを表示します。パラメーター1、パラメーター2 は使用しません。
	パラメーター1	種類の説明で指示された値を記述します。
	パラメーター2	種類の説明で指示された値を記述します。
ShowMessage		ステータスウィンドウを表示します。
	パラメーター	ステータスウィンドウ内に表示する文字列を記述します。
Sleep		システムを停止状態にし、ディスプレイモニタの電源を Off にします。
Snapshot		内蔵カメラの映像を保存します。
	ファイル名	画像を保存するファイル名を記述します。

コマンド	パラメータ	説明
Sound		Sounds (音声) に登録された音声データを再生します。
	識別名	再生する Sound (音声) の識別名を記述します。
	ボリューム	再生する音声の音量を 1～200 の範囲で記述します。(省略時は 100 と同等)
	スイッチ	以下の一覧のいずれかを記述します。
	(省略)	SendControl コマンドで設定されたデバイスに音声を出力します。
	Speaker	スピーカーのみに音声を出力します。
	Telephone	電話回線のみに音声を出力します。
	Repeat	繰り返し再生します
Sub		変数の値を指定された数値で減算します。
	変数名	対象の変数名を記述します。
	値	減算する値を記述します。
Suspend		インターフェイスボードの各種センサー検知によるイベントの発生を一時停止します。停止が解除された時点では各種センサーの状態のイベントは発生しません。
	種類	以下の一覧のいずれかを記述します。
	Sensor	人感センサー全てのイベント発生を無効化します。
	Sensor1	人感センサー1 のイベント発生を無効化します。
	Sensor2	人感センサー2 のイベント発生を無効化します。
	SensorEX	人感センサー3 (オプションセンサー) のイベント発生を無効化します。
	OffHock	受話器のフック検知センサーのイベント発生を無効化します。
	OnHock	受話器のフック検知センサーのイベント発生を無効化します。
	Handset	受話器のフック検知センサーのイベント発生を無効化します。
	Connect	極性反転検知センサーのイベント発生を無効化します。
	Disconnect	極性反転検知センサーのイベント発生を無効化します。
	Talking	極性反転検知センサーのイベント発生を無効化します。
	時間	停止する秒数を記述します。
Unload		画面に表示される各種データを開放します。
	種類	以下の一覧のいずれかを記述します。
	Element	識別名で指定された Element (画面要素) を開放します。
	HTML	識別名で指定された HTML (Web ページ) を開放します。
	識別名	解放するデータを特定する識別名を記述します。
Video		動画ファイルを再生します。
	動画ファイル名	再生する動画のファイル名を記述します。
	音量	再生する動画の音量を 0～150 の範囲で記述します。(省略時は 100 と同等)
	再生領域	再生する動画の位置を「Left,Top,Width,Height」の形式で指定します。(省略可能)

3.パラメータについて

コマンド		
パラメータ	説明	
Wait	条件が満たされている間処理を一時停止します。	
条件	以下の一覧のいずれかを記述します。	
(秒数)	指定された秒数の間停止します。パラメーターは使用しません。	
Dial	モデムがダイヤル処理中の間停止します。パラメーターは使用しません。	
If	パラメーターで指定された条件式が満たされている間停止します。条件式の詳細は「If」コマンドを参照してください。	
LineReverse	電話回線の極性がパラメーターで指定された状態の間停止します。パラメーターには「On」(極性反転している間)または「Off」(極性反転していない間)を記述します。	
OffHook	受話器が上がっている間(オフフック状態)停止します。パラメーターは使用しません。	
OnHook	受話器が置かれている間(オンフック状態)停止します。パラメーターは使用しません。	
Process	「Process」コマンドで起動された実行モジュールが実行中の間停止します。パラメーターには実行モジュールを特定する識別名を記述します。	
Sound	「Sound」コマンドで開始された Sound (音声) が再生中の間停止します。パラメーターは使用しません。	
Talk	通話中の間停止します。パラメーターは使用しません。	
Video	動画が再生中の間停止します。パラメーターは使用しません。	
パラメーター	条件の説明で指示された値を記述します。	
Wakeup	システムの停止状態を解除し、ディスプレイモニタの電源を On にします。	
WriteLog	ログを出力します。	
パラメーター	以下の一覧のいずれかを記述します。	
Dial	通話ログを出力します。通話ログはデータベースが存在するフォルダ内の「DialLog」フォルダに日付ごとのファイルとして記録されます。また、変数「CallLogDBFilename」に設定されている通話履歴データへも同時に記録されます。	
(文字列)	動作ログに指定された文字列を出力します。動作ログはデータベースが存在するフォルダ内にファイル「Event.log」として保存されます。	

4 お手持ちのパソコンでデータをメンテナンスする

お手持ちのパソコンにメンテナンスツールをインストールして、データのメンテナンスを行うことができます。

◆ メンテナンスツールのインストール

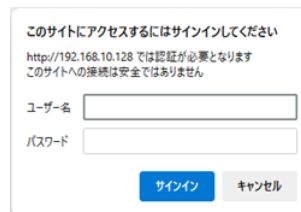
- ① 担当者のパソコンから WEB ブラウザーでコンコンコールの管理用ページにアクセスします。

管理用ページ URL: `http://xxx.xxx.xxx.xxx/cc/Tools`

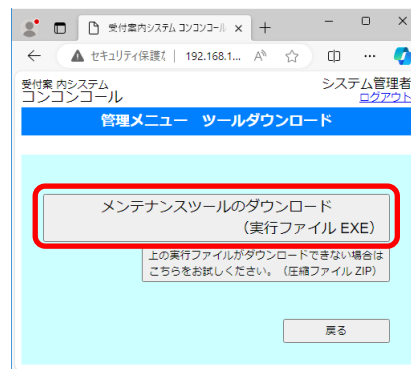
(xxx.xxx.xxx.xxx はコンコンコール本体の IP アドレス)

- ② 認証画面で組織の識別 ID とパスワードを入力してログインします。

(デフォルト設定 ユーザー名:admin パスワード:ComConCall)



- ③ 管理ツール メニューで「メンテナンスツールのダウンロード(実行ファイル EXE)」をクリックしてメンテナンスツールをダウンロードします。

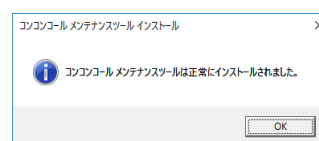
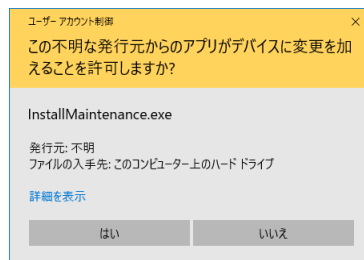


警告メッセージが表示される場合がありますが、そのままダウンロードを続行します。ダウンロードができない場合は「圧縮ファイル ZIP」によるダウンロードをお試しください。



Microsoft Edge の警告の例

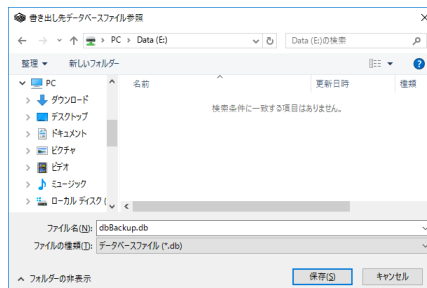
- ④ ダウンロードした実行ファイルを実行すると「ユーザーアカウント制御」の警告メッセージが表示される場合がありますが、「はい」をクリックするとインストールが開始され、インストールが完了すると完了メッセージが表示されます。



4.お手持ちのパソコンでデータをメンテナンスする

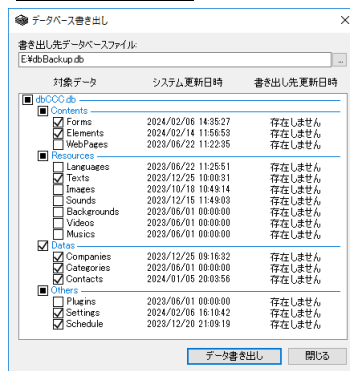
◆ USBメモリ等を使用する場合

- ① メンテナンスツールをインストールした端末のコンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② データを編集します。
- ③ メニューバーから **ファイル(F)-外部データベース書き出し(バックアップ)** を選択します。
- ④ 保存先ディレクトリ、ファイル名を指定し **保存** をクリックします。(保存先をUSBメモリ等に設定します。)



参考: スケジュール運転管理の場合はメニューバーより **ファイル(F)-外部データベース書き出し(W)** を選択します。

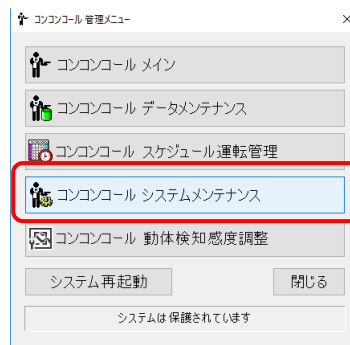
- ⑤ 編集した対象データを選択して **データ書き出し** をクリックします。



- ⑥ 書き出し終了のメッセージが表示されるので **OK** をクリックします。
- ⑦ USBメモリ等をコンコンコール本体にセットします。
- ⑧ 画面の3点タッチよりシステムメニューを表示して、**Windowsに戻る** をクリックします。

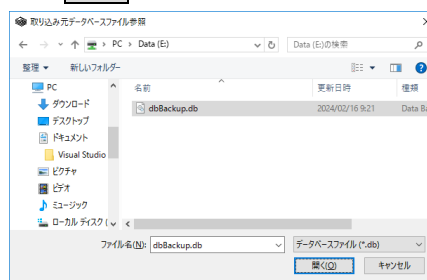


- ⑨ 管理メニューから **コンコンコール システムメンテナンス** をクリックして起動します。



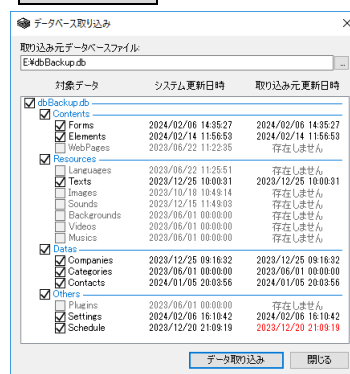
- ⑩ メニューバーから **ファイル(F)ー外部データベース取り込み(復旧)** を選択します。

- ⑪ USB メモリ、ファイル名を指定し **開く** をクリックします。



参考: スケジュール運転管理の場合はメニューバーより **ファイル(F)ー外部データベース読み込み(R)** を選択します。

- ⑫ 編集した対象データを選択して **データ取込** をクリックします。



- ⑬ 取り込み終了のメッセージが表示されるので **OK** をクリックします。

- ⑭ システムメンテナンスを終了し、管理メニューから **コンコンコール メイン** をクリックして起動します。

- ⑮ データが更新されているか確認してください。

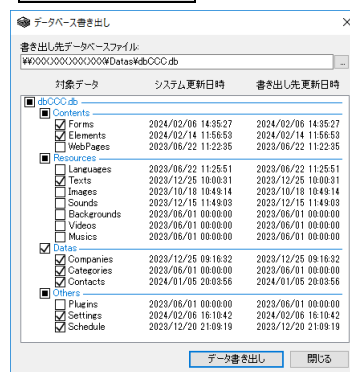
4.お手持ちのパソコンでデータをメンテナンスする

◆ ネットワークに接続している場合

- ① メンテナンスツールをインストールした端末のコンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② データを編集します。
- ③ メニューバーから **ファイル(F)ー外部データベース書き出し(バックアップ)** を選択します。
- ④ **ファイル名(N)** に「¥¥XXX.XXX.XXX.XXX¥Datas¥dbCCC.db」を入力し **保存(S)** をクリックします。
(XXX.XXX.XXX.XXX はコンコンコール本体に設定したIPアドレス)
「Windows セキュリティ」ウインドウが表示される場合がありますが、この場合 **ユーザー名** に「ccc」、**パスワード** に「ccc」を入力し、**資格情報を記憶する** にチェックを入れてください。



- ⑤ 編集した対象データを選択して **データ書き出し** をクリックします。



- ⑥ 書き出し終了のメッセージが表示されるので **OK** をクリックします。

参考: スケジュール運転管理の場合はメニューバーより **ファイル(F)ー外部データベース書き出し(W)** を選択します。

5 コンコンコールのカスタマイズ

1) Forms の対応画面について

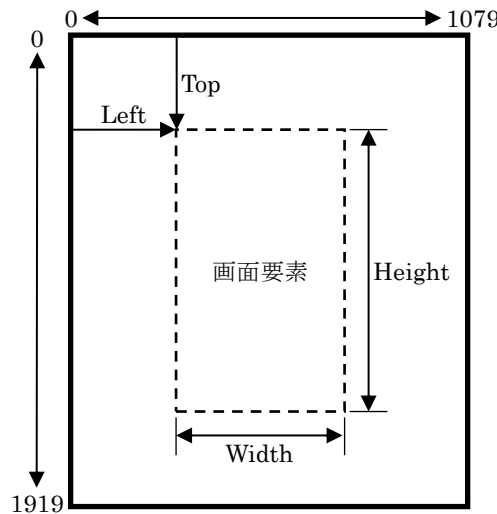
標準仕様での画面です。カスタマイズを行っている場合は一致しないことがあります。

Index	Name	対応画面	備考
0001	Initialize		表示されません。起動時はここからスタートします。 Activate タブの内容を実行後、Start 画面に移行します。
0002	Start		表示されません。データの登録状況や最初に表示する画面(スタート画面)を振り分けます。
0003	Video		通常は表示されません。カスタマイズで無人時に動画を表示する画面です。
0004	Reservation		来訪予約受付画面です。 来訪予約オプションを利用する場合に表示されます。
0005	Company		組織選択画面です。複数の組織が登録されている場合に表示されます。
0006	Search		表示されません。変数 SearchForm で指定された初期検索画面への準備を行います。
0007	Menu		検索方法選択画面です。標準のスタート画面となります。
0008	Section		部門検索画面です。
0009	Phonetic		名前検索画面のフリガナ入力画面です。
0010	Name		名前検索画面の絞込み結果画面です。
0011	Number		内線番号入力画面です。

Index	Name	対応画面	備考
0012	DirectCall		表示されません。直通電話の振り分けを行います。
0013	Call		呼び出し中画面です。
0014	Talk		通話中画面です。
0015	Accept		来客メッセージ通知の受付完了画面です。
0016	Decline		来客メッセージ通知の受付不可画面です。
0017	Door		ドア開錠画面です。 電気開錠オプションを利用する場合に表示されます。
0018	Print		入館証発行画面です。 入館証発行オプションを利用する場合に表示されます。
0019	NG		無効な受付番号画面です。 来訪予約機能を利用して無効な受付番号が入力された場合に表示されます。
0020	Dummy		ダミー画面です。通常は表示されません。 スクリプト中の「Load」コマンドで読み込んで表示する画面要素の Form 選択用に使用します。

2) Elements (画面要素)、HTMLs (Web) の配置位置

画面及び画面要素の基準は左上となっています。(画面の左上が Left=0,Top=0、右下が Left=1079,Top=1919)
画面要素のサイズを Width と Height で設定します。



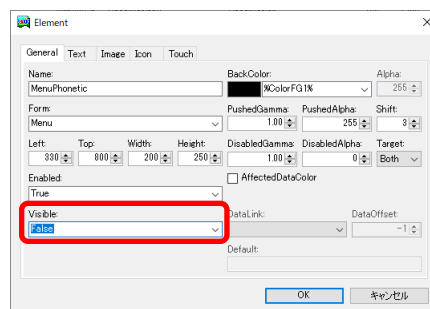
3) カスタマイズ例

ここでは、コンコンコールをより快適にお使い頂くため、いくつかカスタマイズの設定手順をご紹介します。

◆ 名前検索機能を無効にする

検索方法選択画面の「名前検索」ボタンを表示しないよう設定し、機能を制限します。

- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Contents」－「Elements」フォルダを選択し、登録内容一覧で Name 欄が「MenuPhonetic」のデータをダブルクリックで開きます。
- ③ General タブの Visible を「False」に変更し、**OK** をクリックします。
- ④ コンコンコールを起動し、検索方法選択画面にボタンが表示されないことを確認します。



参考: 連絡先データのすべての連絡先にフリガナが登録されていない場合、名前検索機能は自動的に無効化されます。

◆ 無人時に省電力モードで待機する

一定時間来訪者が無い場合、ディスプレイモニタを省電力モードにして待機します。

- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Contents」―「Forms」フォルダを選択し、登録内容一覧で Name 欄が「Initialize」のデータをダブルクリックで開きます。
- ③ 「Set StandbyMode None ←・・・」と書かれたスクリプトを「Set StandbyMode PowSave ←・・・」と書き換え、**OK** をクリックします。

- ④ コンコンコールを起動し、無人状態でディスプレイモニタの表示が消え、また人感センサーまたは画面をタッチすることでディスプレイモニタの表示が復帰することを確認します。

◆ 検索方法選択画面の「部門検索」ボタンを「会社名検索」に変更する

複数の会社で使用する場合など、「部門検索」ボタンを「会社名検索」に変更します。

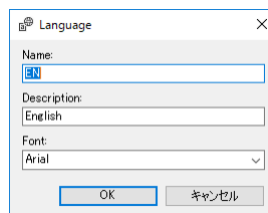
- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Resources」－「Texts」フォルダを選択し、登録内容一覧で Name 欄が「検索方法Section」のデータをダブルクリックで開きます。
- ③ 言語タブの「JA」を開き内容を「会社名検索」に変更し、**OK** をクリックします。
- ④ 日本語以外の画面も変更する場合は、言語タブでその他の言語（「EN:英語、CHS:簡体中国語、CHT:繁体中国語、KO:韓国語」）のデータも同様に変更します。
- ⑤ コンコンコールを起動し、「会社名検索」に変更されていることを確認します。



◆ 言語選択ボタンを追加して多言語対応にする

スタート画面に言語選択ボタンを表示し、多言語対応にします。標準で対応している言語は日本語、英語、簡体中国語、繁体中国語、韓国語です。

- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Resources」－「Languages」フォルダを選択し、新規作成します。
- ③ Name 欄に新たな言語の識別名、Description 欄に表示名を入力し、Font 欄にその言語で使用するフォントを選択し、**OK** をクリックします。

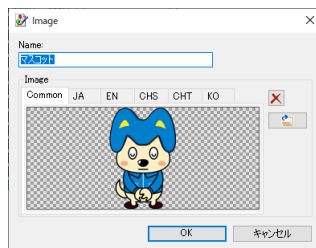


- ④ 更に言語を追加する場合は②③を繰り返します。
- ⑤ 登録情報フォルダの「Resources」－「Texts」フォルダを選択し、登録内容一覧にあるデータすべてに対し追加した言語のタブにその言語の文字列（訳文）を登録します。
- ⑥ 登録情報フォルダの「Resources」－「Sounds」フォルダを選択し、登録内容一覧にあるデータすべてに対し追加した言語のタブにその言語の音声ガイダンスを登録します。
- ⑦ 必要に応じコンコンコールデータメンテナンスから追加した言語の連絡先データを登録します。
- ⑧ コンコンコールを起動し、新たな言語が追加されていることを確認します。

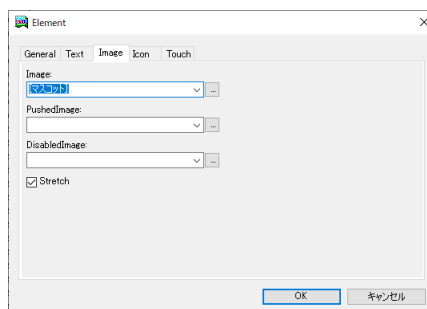
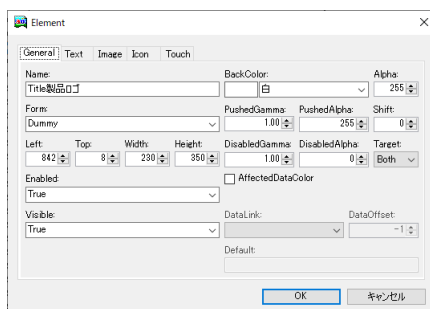
◆ 製品ロゴを別の画像に変更する

画面右上に表示されている製品ロゴ(ComConCall)を別の画像に変更します。

- ① ロゴの画像を用意します。背景を透明にできる PNG 方式で作成すると見栄えが良くなります。画像サイズは 1080×1920 ピクセル以下としてください。
- ② コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ③ 登録情報フォルダの「Resources」→「Images」フォルダを選択し、新規作成します。
- ④ Name 欄に識別名(この例では「マスコット」)を入力し、 をクリックして用意した画像を登録します。言語ごとに違う画像を使用する場合は言語タブそれぞれに画像を登録し、**OK** をクリックします。



- ⑤ 登録情報フォルダの「Contents」→「Elements」フォルダを選択し、「Title 製品ロゴ」をダブルクリックで開きます。
- ⑥ 画像にあわせ General タブの Left・Top・Width・Height の値を調整し、BackColor 欄に「白」を指定します。
- ⑦ Text タブの Text 欄「%CompanyDescription%」を削除します。
- ⑧ Image タブの Image 欄に「[組織名ロゴ]」と入力し、**OK** をクリックします。Image 欄は  をクリックして一覧から選択も可能です。Stretch にチェックを入れると Width・Height で指定したサイズに画像をリサイズして表示します。



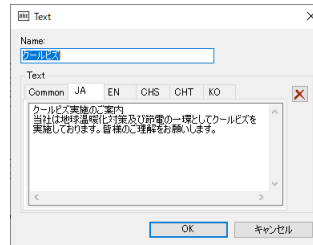
- ⑨ コンコンコールを起動し、ロゴが表示されることを確認します。



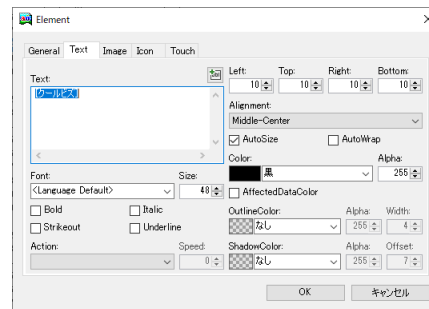
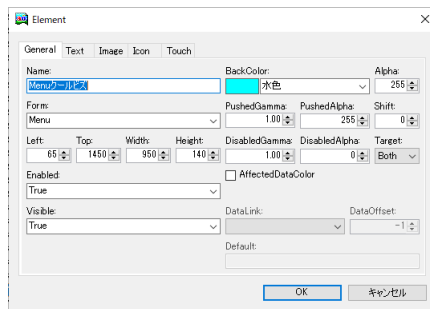
◆ 画面にメッセージを追加する

任意の画面にメッセージを追加します。例としてスタート画面(検索方法選択画面)にクールビズの案内を表示します。

- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Resources」－「Text」フォルダを選択し、新規作成します。
- ③ Name 欄に「クールビズ」と入力し、言語タブの「JA」を選択してメッセージを入力します。
言語ごとに違うメッセージを使用する場合は言語タブそれぞれにメッセージを入力し、**OK** をクリックします。



- ④ 登録情報フォルダの「Contents」－「Elements」フォルダを選択し、データを新規作成します。
- ⑤ General タブで Name 欄に「Menu クールビズ」、Form 欄に「Menu」、Left・Top・Width・Height 欄をそれぞれ「65」・「1450」・「950」・「140」、BackColor 欄に「水色」に設定します。
- ⑥ 続いて Text タブで Text 欄に「[クールビズ]」と入力して Font の Size 欄を「48」、Left・Top・Right・Bottom 欄をそれぞれ「10」・「10」・「10」・「10」、Alignment 欄を「Middle-Center」に設定し、**OK** をクリックします。



※ 文字に縁取りを付けたり、文字をスクロールして表示することも可能です。詳細は「2 2) Contents フォルダ(画面コンテンツの情報)」の「Elements(画面要素の情報)」を参照してください。

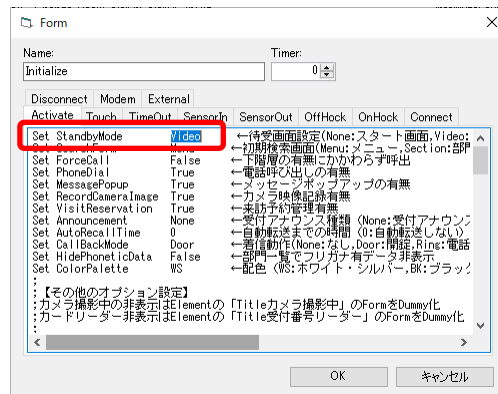
- ⑦ コンコンコールを起動し、メッセージが表示されることを確認します。



◆ 無人時に動画を再生する

一定時間来訪者が無い場合、動画を再生します。

- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Contents」－「Forms」フォルダを選択し、登録内容一覧で Name 欄が「Initialize」のデータをダブルクリックで開きます。
- ③ 「Set StandbyMode None ←…」と書かれたスクリプトを「Set StandbyMode Video ←…」と書き換え、**OK** をクリックします。

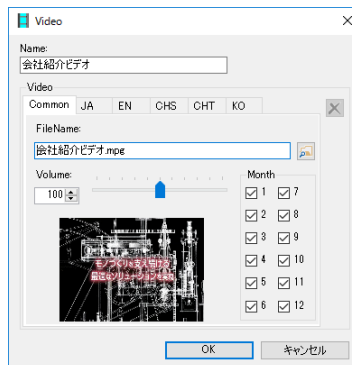


- ④ コンコンコールを起動し、動画が再生されることを確認します。

※ 動画を変更する場合

標準仕様の動画を用意した動画に変更します。

- ① 動画ファイルを用意します。
画像サイズ………1080×810 ピクセル
異なる画像サイズでも登録可能です。その場合はリサイズして表示します。
ワイド(16:9)で表示させる場合は下項を参照してください。
ファイル形式………MPEG1(.mpg)または MPEG4(.mp4)
- ② 用意した動画ファイルを C:\Program Files (x86)\ComConCall\Datas フォルダ内にコピーします。
- ③ コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ④ 登録情報フォルダの「Resources」－「Videos」フォルダを選択し、標準で登録されているデータを削除します。
- ⑤ データを新規作成し、 をクリックして C:\Program Files (x86)\ComConCall\Datas フォルダ内の動画ファイルを選択してプレビューに動画が再生されることを確認します。
言語ごとに違う動画を使用する場合は言語タブそれぞれに動画を登録し、**OK** をクリックします。



- ⑥ コンコンコールを起動し、動画が再生されることを確認します。

※ ワイド(16:9)で動画を表示させる場合

- ① コンコンコールシステムメンテナンスを起動します。
- ② 登録情報フォルダの「Contents」-「Forms」フォルダを選択し、登録内容一覧で Name 欄が「Video」のデータをダブルクリックで開きます。
- ③ Activate タブの「BGV On 0,750,1080,810」を「BGV On 0,750,1080,608」に変更します。
- ④ **OK** をクリックし、システムメンテナンスを終了します。
- ⑤ コンコンコールを起動し、動画がワイドで表示されることを確認します。



輸出管理に関するお願い

当システム実現するためのコンピューターやソフトウェアによっては、輸出貿易管理令別表第1の8の項、貨物等省令第7条第一号第八に該当する貨物となりますので、当システム及びパソコンを海外在住者、海外法人など非居住者に提供する場合には、外国為替及び外国貿易法第25条第1項及び第48条第1項に基づく役務取引許可輸出許可が必要となります。

Microsoft®、Windows®は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、記載されているプログラム名、CPU 名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

受付案内システム カスタマイズ説明書

発行日 2024 年 4 月 (初版発行)

発行責任 三菱電機エンジニアリング株式会社

〒508-0015 岐阜県中津川市手賀野 3-40

本プログラムおよびマニュアルは無断で複製することを禁止します。

本書の内容は、改善のため予告なしに変更することがあります。

53A952B2701